



特集紹介（特集2 国際シンポジウム報告：ジルダ・サルモン氏を迎えて）

「情動の社会学」 科研研究会

(Citation)

社会学雑誌, 40:145-148

(Issue Date)

2023-12-25

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100486327>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100486327>



特集紹介 国際シンポジウム報告

―― ジルダ・サルモン氏を迎えて ――

「情動の社会学」 科学研究会編

本特集は、二〇二三年二月～三月に科研費基盤研究（B）

『集合意識』から『情動の社会学』へ――デウルケーム社会学の現代的展開』（研究代表者：小川伸彦、二二H〇〇九〇四）の主催でフランスの哲学者・社会科学史研究者のジルダ・サルモン氏を招いておこなわれた、日仏社会学国際シンポジウムおよびラウンドテーブルより、サルモン氏と日本側の登壇者から笠木丈氏、川本彩花氏の寄稿を紹介するものである。

のべ三日間にわたって開催された同シンポジウムとラウンドテーブルについて、各回のプログラムおよび当日の登壇者と講演題目は、以下のとおりである。

（二〇二二年度 日仏社会学国際シンポジウム＆ラウンドテーブル）

一、奈良会場【国際シンポジウム】

・日時：二〇二三年二月二七日（月）

一三：三〇～一八：〇〇

・会場：奈良女子大学 文学系S棟 S二三五

・テーマ：社会学とその周辺：人類学・哲学との関わり

Sociologie et ses alentours : anthropologie et philosophie

・開催の趣旨：社会学と、人類学・哲学というその隣接領域との関わりを、デウルケーム、グラネ、レヴィ

|| ストロース、ベルクソンに着目して考究する。

・講演：ジルダ・サルモン Gildas Salmon（国立科学研究センター CNRS・社会科学高等研究院 EHES）

・題目…神話の構造分析の誕生…デュルケーム、グラネ、レヴィ・ストロース

Naissance de l'analyse structurale des mythes: Durkheim, Granet, Lévi-Strauss

・要旨…本講演では、デュルケームの原理が、まずはマルセル・グラネにおいて、次いで彼を媒介としてレヴィ・ストロースにおいて、比較分析の新たな形式の出現を可能にしたその仕方を明らかにする。この系譜をたどることによって、しばしば主張されるような構造人類学とデュルケーム学派の諸原理との間の断絶という考えを相対化することが可能となる。

・報告…笠木丈 KASAGI Jo (甲南大学)

ベルクソンにおける有機体としての社会…デュルケームの受容をめぐる

La société organique chez Bergson : autour de la réception bergsonienne de Durkheim

(主催)…科学研究費補助金・基盤研究(B)『『集合意識』から『情動の社会学』へ——デュルケーム社会学の現代的展開』(二二H〇〇九〇四)、日仏社会学会、デュルケーム/デュルケーム学派研究会
(共催)…奈良女子大学社会学研究会、神戸大学社会学研究会

二、奈良会場【ラウンドテーブル】

・日時…二〇二三年二月二八日(火)

一〇:三〇—一二:三〇

・会場…奈良女子大学文学系N棟 N三三九

・話題提供…ジルダ・サルモン(逐次通訳あり)

・話題…イギリス植民地帝国における社会科学の誕生

(La naissance des sciences sociales dans le cadre de l'empire colonial britannique) についてなど、サル

モン氏を囲み、話題提供を受けるとともに、フランスや日本の社会学事情・社会事情などについて自由に歓談する。

三、東京会場【国際シンポジウム】

・日時…二〇二三年三月一日(金)

一三:三〇—一八:〇〇

・会場…日仏会館一階ホール 東京都渋谷区恵比寿三一九

一二五

・テーマ…モダニティを問い直す…デュルケーム、ブルデュー、さらにその先へ

Repenser la modernité: Durkheim, Bourdieu et au-delà

・開催の趣旨…近代社会の到来とともに成立した社会学は、常に「近代」を研究の土台に見据えてきた。社会学から人類学へという流れの中で、「近代」が相

対化される一方、「ポストモダン」をめぐる議論では、現在ではもはや「近代社会」ではないのではないかという問いも示される。デュルケーム、ブルデューというフランス社会学の伝統を踏まえつつ、さらに今日の日本の状況をも視野に入れて、モダニティについてあらためて問い直す。

・講演：ジルダ・サルモン Gildas Salmon

・題目：近代人および非近代人における機械的連帯と有機的連帯・ブルデューと進化主義の危機
Solidarité mécanique et solidarité organique chez les modernes et les non-modernes: Bourdieu et la crise de l'évolutionnisme

・要旨：本講演では、第二次世界大戦以後、とりわけブルデューにおいて、フランス社会学における機械的連帯と有機的連帯という二項対立がどのようなものになったのかを検討する。人類学に対して一九六〇年代に向けられた、進化主義に対する批判にもかかわらず、この二項対立がブルデューの社会学と人類学とを構造づけていたこと、さらには、この二つのタイプの連帯が、近代社会ならびに非近代社会の分析において異なる仕方に関連していることを明らかにすることが課題となる。

・報告：川本彩花（日本学術振興会特別研究員・滋賀大学）

趣味と階層…文化資本の日本的状況

Goût et stratification sociale: situation japonaise du capital culturel

山田陽子（大阪大学）

「感情資本主義」の社会学史上的意義

Signification du « capitalisme émotionnel » dans l'histoire de la sociologie

（主催）：科学研究費補助金・基盤研究（B）「『集合意識』から『情動の社会学』へ——デュルケーム社会学の現代的展開」（二二H〇〇九〇四） 日仏社会学会、デュルケーム／デュルケーム学派研究会

（共催）：日仏会館・フランス国立日本研究所、協力：公益財団法人日仏会館

* * *

同シンポジウムとラウンドテーブルの詳細は、本科研が作成しているホームページ内（二〇二三年二月一九日取得、<https://avedurkheim.com/symposium.html>）にも記事として掲載されている。

招聘者のジルダ・サルモン氏は、国立科学研究センター（CNRS）・社会科学高等研究院（EHES）に属する気鋭の研究者で、社会科学高等研究院の「反省性に関す

る学際研究室」(Laboratoire interdisciplinaire d'études sur les réflexivités)のメンバーである。主要著作として、『精神の構造：レヴィ＝ストロースと神話』*Les Structures de l'esprit*, Lévi-Strauss et les mythes, Presses Universitaires de France, 2013, 『ソブリン債：政治経済と国家』(ユリア・クリストとの共編) *Sous la direction de Julia Christ & Gildas Salmon, La dette souveraine : Economie politique et l'Etat*, Editions de l'EHESS, 2018 などがある。

またサルモン氏による上記講演のうち、「近代人および非近代人における機械的連帯と有機的連帯：ブルデューと進化主義の危機」(白鳥義彦訳)については、日仏社会学会刊『日仏社会学会年報』第三四号、一七七一〇二頁に掲載されている。そちらも本号と併せて参照されたい。